

■知的障害のある子どもたちへの実践事例

マルチメディアDAISY図書を学習場面で活用しよう —生活単元学習での実践

鳥取大学附属特別支援学校

田中 葉子 田村 里架 岩谷 英里菜 入川 加代子

はじめに

本校は、「豊かな心をもち、生活を楽しむ子」を教育目標に掲げ、子どもたちの生活が豊かなものになるようにと願い、日々の教育実践に取り組んでいます。図書館教育の推進にあたっては、「知的発達遅延のある子どもたちにも読書の楽しさを保障したい」との思いから、学校図書館の整備を進めてきました。

本校の年間の貸し出し図書を分析すると、子どもたちは、絵や写真の多い図鑑やアイドルの雑誌、アニメやゲームの映像が載っていたり文章になっていたりと、借りるものの貸し出しが多いです。文章が長く、むずかしい言葉で書かれている図書は、教師が教材研究で資料として活用したり、わかりやすい文章にしてから子どもたちに提供したりするために貸し出されていることが多くあります。

目的

本校は、図書館にマルチメディア

DAISY図書を配架して、8年が経ちます。子どもたちが読みたい図書を手に取りやすいように、1タイトルごとに分冊したり、すべてのiPadで視聴できるように、ボイス・オブ・デイジーというアプリをインストールしたりして環境を整えています。朝読書の読書活動や休憩時間に余暇としてマルチメディアDAISY図書を視聴していることはありますが、学習の中で活用されていることはほとんどありません。

そこで、昨年度の実践（わいわい文庫活用術⑧）もふまえ、マルチメディアDAISY図書の特長を活かすことで学習のねらいを効果的に伝えることができると考え、今回の実践をしました。

学習の内容

＊生活単元学習 「不思議の正体を見つけよう」

第1時：シュガースティックを作ろう

第2時：ゼリー石鹸を作ろう

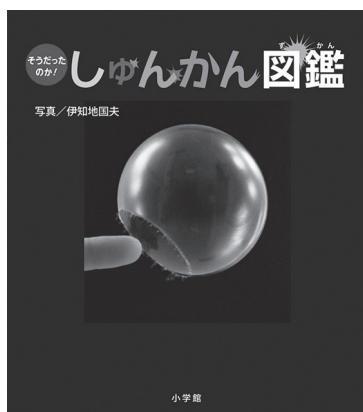
第3時：割れないシャボン玉と長いシャボン玉を作ろう

第4時：酸性・中性・アルカリ性を
見つけよう

＊学年…中学部3年生

＊マルチメディアDAISY図書…

『しゅんかん図鑑』



＊学習のねらいと活用方法

生活単元学習「不思議の正体を見つけよう」の導入部分で、マルチメディアDAISY図書『しゅんかん図鑑』を活用しました。学習のねらいである、「これは何だろう？」と不思議に思ったことに対して仮説を立て、実験をして正体を見つけていく活動を、マルチメディアDAISY図書『しゅんかん図鑑』で見ることができます。

生徒の実態

対象の生徒は、知的障害と併せて自閉スペクトラム症、ADHD、場面性緘黙症などさまざまな障害を有し、知的発達の程度も幅のある集団です。朝読書や余暇の時間に読んでいる本は、絵本（5歳児程度）から小学校高学年程度の物語、ファッション雑誌や鉄道写

真集などさまざまです。音声指示のみでは十分に意図が伝わりにくく、抽象的な言葉の意味理解がむずかしい生徒も多くいます。板書やワークシートは、漢字にふりがなをつけて簡潔な言葉で表記したり、イラストや写真も併せて説明したりすることで、視覚的にわかりやすく捉えられるような工夫が必要です。また、長い時間集中を続けることにもむずかしさがあるため、伝える情報量に配慮が必要です。

第1時の展開

①マルチメディアDAISY図書『しゅんかん図鑑』を視聴する。



スクリーンでマルチメディアDAISY図書を視聴

②視聴した図書の内容を質問し、内容が把握できているかを確認する。

③学習のねらいを説明する。

④水溶液を使って、シュガースティックを作る。

⑤何ができるのかを予想する。

マルチメディアDAISY図書活用のポイント

* 選書

- ・生活年齢に応じて興味のもてるもの。
- ・写真が多く、展開がわかりやすいものの。
- ・一文が短く、簡潔に書かれているもの。

* 支援

- ・わかりやすく視聴できる機能の一つとして、読まれている文字がハイライトで示されることを、あらかじめ説明しておく。
- ・全員で視聴できるように、スクリーンで視聴する。
- ・ハイライトの色を、見やすい色に合わせて変更する。
- ・読み上げの速度を、聞きやすい速さに調整する。
- ・注目してほしい部分を拡大して提示する。
- ・視聴する時間と内容を、集中が継続できる時間に合わせて設定する。

成果と課題

マルチメディアDAISY図書『しゅんかん図鑑』は、ふだんは目に見えない“瞬間”を撮った写真がコマ送りで流れ、「これは何だろう？」と疑問に思い、予想をした頃に正体が現れるという内容

が繰り返されるので、生徒たちも期待感を持ち続けて視聴できました。「これは○○か？」など、予想をすることばが生徒たちから聞かれたことから、興味・関心を引き出すことに効果的であったと感じています。視聴後に図書の内容を質問すると、多くの生徒が印象に残った場面や書かれていたことばを答えることができました。文字がハイライトで表示されて読み上げられることや、漢字にふりがながついていることで、読みにむずかしさを感じていた部分が緩和され、図書から情報を得ることができたと考えます。

単元のまとめの第4時では、学校司書によるブックトークを実施しました。単元の内容を上げられる内容の図書5冊と共に、マルチメディアDAISY図書で視聴した『しゅんかん図鑑』の本も紹介しました。ページ数の多い図書でしたが、一度マルチメディアDAISY図書で視聴しているので、自然と手に取り読んでいた姿がありました。

今回の実践では、マルチメディアDAISY図書を学習教材として活用しました。わいわい文庫のタイトルの中には、教科学習で活用できる内容のものが多数あります。一人ひとりのニーズに合わせて、自分に合った見方で視聴できることは、読書から得ることができる楽しみや情報を保障することにとっても重要なことと実感しました。余暇

としての活用に加えて、今後も学習場面での活用を拡げていきたいと思います。



「これで何ができるかな?」と、言いながら実験中



砂糖入りの水溶液を並べて観察する様子

